

が ん ば

報 友 会 育 小 三 島
行 部
部 報 廣 告

〔第64号〕

豊かな心と実践力

道徳教育研究発表会開かる



道徳教育

研究発表会を終えて

学校長 江 島 九 香



二ヶ年に亘って道徳教育の効果的な在り方を研究して参りましたが、去る十一月十一日に研究発表会を実施しました。県内は勿論、遠く熊本、福岡県からの先生方約二百名の参集を得て盛会裡に終了することが出来ました。これはひとえに育友会の皆さんが物心両面からの手厚い御支援ご協力のお蔭さまでございまして心より感謝申し上げます。道徳教育は知識の教育ではなく、「心づかい」の教育であります。毎日の生活の中で、「何を思い考え、どのように行動するか」の教育であります。人間は大人や子供の区別なく「自分本位」に考える傾向を強くもっており、そこから価値感の多様性が、ここから生れるし、又個性も違ってくると思われまふ。

二ヶ年に亘って道徳教育の効果的な在り方を研究して参りましたが、去る十一月十一日に研究発表会を実施しました。県内は勿論、遠く熊本、福岡県からの先生方約二百名の参集を得て盛会裡に終了することが出来ました。これはひとえに育友会の皆さんが物心両面からの手厚い御支援ご協力のお蔭さまでございまして心より感謝申し上げます。道徳教育は知識の教育ではなく、「心づかい」の教育であります。毎日の生活の中で、「何を思い考え、どのように行動するか」の教育であります。人間は大人や子供の区別なく「自分本位」に考える傾向を強くもっており、そこから価値感の多様性が、ここから生れるし、又個性も違ってくると思われまふ。

二ヶ年に亘って道徳教育の効果的な在り方を研究して参りましたが、去る十一月十一日に研究発表会を実施しました。県内は勿論、遠く熊本、福岡県からの先生方約二百名の参集を得て盛会裡に終了することが出来ました。これはひとえに育友会の皆さんが物心両面からの手厚い御支援ご協力のお蔭さまでございまして心より感謝申し上げます。道徳教育は知識の教育ではなく、「心づかい」の教育であります。毎日の生活の中で、「何を思い考え、どのように行動するか」の教育であります。人間は大人や子供の区別なく「自分本位」に考える傾向を強くもっており、そこから価値感の多様性が、ここから生れるし、又個性も違ってくると思われまふ。

発表会報告

教頭 大場 昭生

県教委指定の二年間に亘る本校の道徳研究発表会は、去る十一月十一日無事終了することができました。午前中は、公開授業、低、中、高別の分科会があり、活発な質問や意見が出されました。午後の全体会では、本校のすすめてきた道徳研究についての発表、指導助言等があり授業、発表共に多くの賞賛をうけることができました。指導助言者、参会者の方は「道徳で内面化をはかり、特別活動を位置づけるところに特徴がある」「本校のとおりくみはユニークである」「全体計画が、実態や地域のニーズに応じて作成してある」等の評がなされました。また、長崎大学水田教授の「態度の人間」の講演は、多くの人に感銘を与えました。当日の参会者は八十校、三百名にも及びました。このように、盛会裡に終了することができたのも、育友会の皆様方のご協力があったればこそと深く感謝をいたしております。以上簡単にご報告をいたします。

研究報告

学校と家庭が一体となって

研究主任 梅 林 次 生

一二年間の道徳教育の推進にあたっては、物心両面からの御支援を賜わり厚く御礼申し上げます。

第二は、日常生活の中で望ましい行動がとれる子供に育てることでした。子供たちは一人ひとりの生活環境により日常の行動様式はさまざまです。その中で、これだけは全員ができるようにさせたいと

道徳教育につきましては、町内懇談会の折にも少し説明してまいりましたが、三小が

新しい伝統のはじまり

育友会長 前山 四郎



十一月十一日三小の道徳教育研究発表会が行なわれました。約二年前より先生方は、この研究発表のために取組んでこられ、その成果を発表されました。子供達を三小に通学させる親として、徳目としての道徳を教え育てていただく事は大変喜ばしい事と思えます。又学校での教育以上に御家庭でのしつけも今まで以上に再確認する必要があります。

水田教授の講演でも道徳の教育は「知」の教育と根本的に深く結びついているとの事

お祝い申し上げます。

願いました。三つの目標をさだめました。

○はっきりと明るいあいさつ元氣よく。(礼儀作法)

○くちむすび静かに歩こう右側を(規則の尊重)

○さあやろう、力を合わせてきれいにそうじ(勤労)

日常生活に必要な基本的行動様式には、礼儀作法、もの整理整頓、ものや金銭の使い方など、社会生活をする上で、人間として好ましい基本的な行動様式があります。

自分自身に対しても、また、他の人に対しても生活する上で基本になる行為や行動は、きちんとやれる子供に育てなければならぬと考え、三つの生活目標を決めたのです。

目標は、一朝一夕で身につくものではありません。この二年間学校をあげてとり組みましたが、まだまだというところ

第二は、学校と家庭との連携を密にしておくことでした。

子供の道徳性はあらゆる生活の場で養われていくものですから、家庭が学校で行っている道徳教育のねらいや、方針についてよく理解していただき、学校と家庭が協力し合

って指導していけば、よりよい成果が得られるものと考えました。

子供たちの生活の中で、学校ではあとしまつのできる子が、家庭ではできなくては困りますし、その逆であっても何にもなりません。また、教育の出発は、個々の子供を知ることです。この一人ひとりの子供は、生まれてから現在



に至るまでにそれぞれの生活環境や、生活体験に相違があり、同じ事象にふれた時でもさまざまな考え方や感じ方をします。教師はこの子供のもつさまざまな考え方や感じ方を探り出し、一人ひとりの子供に合った適切な指導を行わなければなりません。そのためにも、学校と家庭が強く結

びつくことが大切でした。それで、町内懇談会、教育講演会、道徳の授業の公開、学年だより、学級だより、家庭での生活状況調査、基本的しつけ指導の点検などを実施し、協力をお願いしてまいりました。

以上のような二つのことを核にして子供の道徳性を養ってまいりましたが、今後も、基本的な好ましい行動様式をきちんと身につけた子供に育てるために努力したいと思えます。

さらに、気づく心を持った子供に育てることです。人の心情なり、美しいものを美しいと、気づく心を持った子供にしたいものです。人の心情に気づくことによって、他人への思いやりも生まれてまいります。

以上のようなことをきちんとふまえて、学校教育の中でちゃんと教え、育てていくことが道徳教育であるうと思えます。家庭にあっては、家庭でできるしつけを身につけさせて下さい。しっかりとつけがでますと、学力も向上します。

そして、学校と家庭が一体となって、子供の教育にあたっていききたいものです。

身についた道徳

成瀬博功

子供の乳幼児期は、はぐくみいつくしむ時期。小学校の一、二、三年生は、育て、しつける時期。四、五、六年生は、きたる時期。これは、先日、文化会館で実施された家庭教育総合セミナーでの知識です。そうしてみると、小学校における六年間というものが、人々の将来に、いかに重要な時期であるかをおもひ知らされるわけです。

小学校の課程に道徳教育が導入されて久しいが、しつづけたえるこの時期に、道徳教育が大変に必要なことを、父兄としても充分に理解することが必要だと思えます。

さて、三小で、「道徳の実践力をどうつけるか」をメインテーマに研究発表会が行なわれ、私も育友会の立場で皆さんと一緒に参加しましたが、忙がしくも勉強になる一日でした。公開授業では、殆どどの教室を見せてもらうことができましたし、普通の参観では、自分の子供の教室のみしかみれないことからすると新しい感動でした。

特に、愛護学級では、子供達を非常に自発的に、楽しく、明るく指導される子どもと一体となった本田先生の様子に、頭の下がる思いがしたのは、私だけではなかったでしょう。

研究発表会によせて

島一中教頭(前三小教頭) 下 田 昭 明

私は連絡係でした関係から、急ぐ用事についていっぺんに走り回ってしまいました。さすがに、三小の先生、生徒には動揺など見られませんでした。はたかたしいやら、反省やらでした。三小では今後、いわゆる

島三小の道徳教育研究発表会に参加させて戴き、昨午まで奉職していた者として、ひとことしたためさせていただきます。

昭和五十五年四月、道徳教育研究校として、県指定を受けてより、一ケ年は暗中摸索でしたが、この度の発表は大へんすばらしいものでした。ただ、感服いたすと共に、この二ケ年間の先生方の苦勞が身にしみてまいります。発表当日の公開授業で、先生一人一人の、お顔をじっと見ながら、一緒にいたときのことを思い出して、参観させて戴きました。資料、教育機器、板書、授業の流れ等、極めて研究され、「豊かな心をもち実践力のある児童の育成をめざす道徳教育」の授業として、ただ、すばらしいひとことにつきまます。

「実践する道徳」への取り組みが進むと思えます。この機会をとらえ、私どもも、家庭で、あるいは、町内の子どもたちに、いわゆる身についた道徳となるよう努力したいと思ふ次第です。

このように、保護者、先生が一体となつての実践、指導がなされるとき、島三小の児童は、必ずや立派な人間としての道徳性を身につけて、健全に育成されることでしょう。

私は、朝出勤するとき、三小の子どもたちと会いますが、「おはようございます。」と子どもたちの方から、元気よく、こやかに挨拶をしてくれ、道徳教育に取り組んでこられた結果だと思えます。

この度の三小道徳教育研究推進のためには、調査、実践、連携等に、育友会の皆様方のご協力が絶大だった。また、発表当日の育友会の方々の活動していただける姿を見たとき、この育友会にして島三小ありと、つくづく感じました。

今後、豊かな心をもつ児童の道徳性を高めるため、さらに保護者、先生が一体となつて推進されますよう お祈りいたします。

親も勉強を

福 島 美

当日は、晴天に恵まれ、参加された先生方も、熱心な方ばかりで、資料も全部売れてしまいました。これも、受付をされた会員の方々の適切な案内と、熱心なご協力の賜物だと思えました。先生方も、この二年間、この日のためにいろいろ研究され、本当に、ご苦勞様でした。

この朝は、子どもたちをはじめ、先生方もいつもと違った緊張した面持ちで登校され、先生の中には、慣れない背広姿にネクタイをきちんとしめ、どこなくきまっとしたような、また、ほればれするような、普段お目にかかれなない情景を見せて頂きました。子どもたちも、めったにないこの機会に恵れ、よい体験をしたのではないのでしょうか。

会のしめくくりとして、「態度の人間」というテーマで講演がありました。

道徳とは、人間が共同生活をしていく上で必要なものですが、今日の子どもたちは、

自分本位の考え方が強く、本當の自分というものを持っていない。

その原因の一つとして、私たち親が、子どもに対して、過保護、過干渉、そして期待をかけすぎている。一方、子どもも親のいいなりになってしまい、良い子になろうと見せかけ、本音を出さず、気に入られるようにする。だから楽しみはあるが、本當の喜びを知らない子どもが多いというのです。

やはり、自分の考えを親にどんどん言え、親の気持ちも十分理解できるような子どもであってほしいと思えます。

子どもがのびのびと育つためには、親の暖かい愛情と指導が必要です。将来を担う子どもたちのために、親も、子どもたち以上に勉強しなければならぬと、改めて考えなおしました。

最後に印象に残った言葉を書いて終わりにします。

「幼い時に自分を押えることのできる子は不幸な子である。」

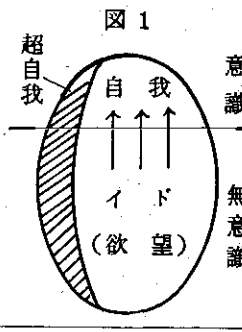


一、自分本位な現代の青少年
今日の新聞紙上、あるいは、テレビ、ラジオのニュースで、毎日のように青少年の問題がとりあげられています。その中味を考えてみると、私たちでは想像もつかないような事件が、次々に起こっているような気がします。

私が、ある中学校のろう下を歩いていると、ちょうど休み時間で、生徒たちと出会うこともありましたが、行きかう生徒の一人が、反対側から来る生徒のほつたを、「ピジャッ」とたたいていったのです。そこで、私は、その生徒に理由をたずねてみたところ、「何って、理由はないのですが、たたきたかったからたたいたんです。」という答えが返ってきました。

そこで、私は、あの子ども心理的な背景はどのようになっているのだろうか、どういふ心根があるのだろうかということを考えてみました。まず、自分本位であるような気がします。ところが、私たち自身も、非常に好きなように生きているような気が、してくるわけで、これは、現代の青少年に限ったことではないように思います。

二、心のしくみ
フロイドという有名な学者が、心のしくみをわかりやすく書いてるので紹介します。



無意識 — 心がはつきりしていない心
「イド」
人間の欲望
がいつぱいは
いつており、
生まれたとき
には、この心
しかない。成長していく過程
の中で、ここに意識の世界が
できあがっていく。

記念講演 「態度的人間」

長崎大学教授 水田 善次郎

って学習をするにしたがって、経験するにしたがって、この自我が非常に深まっていく。「超自我」
意識の世界と無意識の世界の両方にまたがっており、道徳的な心、良心である。
だいたい、五、六歳ごろからではじめ、この小学校時代、とくに、十一、十二歳ごろに、非常にすばらしい発達をとげるといわれる。
このように、フロイドは、「人間の心を、「イド」、「自

ます。
冒頭に、今日の青少年を自分本位といいましたが、この自我がなく、生まれたときと同じような心しかなく、それだけで生活しているといえるわけです。
では、現代の子どもには、自我が育っていないのかどうかという事です、これは、「自我というのはりっぱにできており、他人と自分との関係はよくわかっているけれども、生活の中で、それを利用

は、「結婚する」、子どもの成績がよくない家庭では、「結婚しない」という結果がでてくるように、子どもは、
たまたま、子どもの成績を調べて、そのような関係があることがわかったそうですが、何か、このように、子どもの頭の良し悪しというものが、一番重要視されているような気がします。
知能の高いものが、人間のねうちがあつて、知能の低いものは、人間のねうちもないんだと考える人たちは、私は、知能的人間とよびたいと思います。

「自我」(エゴ)
生後、六ヶ月位からではじめていき、二歳半から三歳ごろまでにはできあがる。
第一反抗期というの、この自我、つまり、自分というものが、できたからである。
わかりやすくいうと、自分と物、自分と他人との関係がわかるということ、年をと

「我」、超自我」という三つの部屋にわけて説明しているのです。
意識の世界自我は、日常の社会環境の中で生きているわけですから、現実原理にしたがって動いていきます。一方、無意識の世界(イド)は、欲望ですから、快楽の原理にしたがっています。
そこで、自我というのが、この二つの世界に照らし合わせて、いろいろな欲望を検閲しながら、同時に、自我自身を作り上げていくことになり

三、知能的人間と直線的思考
現代人には、主体がないと言われています。ここでいう「主体」というのは、自分本位の自分をコントロールする自分のことですが、では、どうしてこのようになったのでしょうか。
東京学芸大学の教授が、調査した資料から考えてみたいと思います。家庭の主婦に、今度生まれてくるときに、また、今のご主人と結婚しますかという質問をしたところ、子どもの成績がすばらしい家庭で

頭のいい子に育てようと、一生懸命になることもけっこうありますが、そのために自分というものを失なわせてしまったのではないのでしょうか。つまり、親や教師の過保護、過干渉、期待しすぎな態度が、子どもを依存的にしてしまひ、さらに、子どもは親からすてられまいと、親の目に「いい子」でいようとします。そもそも、私たちは、自分が何を考え、何を感じ、何を希望しているのかによって、自分というものをコントロールしているように、非常に、干渉され、期待を持たれすぎた子

は、「結婚する」、子どもの成績がよくない家庭では、「結婚しない」という結果がでてくるように、子どもは、
たまたま、子どもの成績を調べて、そのような関係があることがわかったそうですが、何か、このように、子どもの頭の良し悪しというものが、一番重要視されているような気がします。
知能の高いものが、人間のねうちがあつて、知能の低いものは、人間のねうちもないんだと考える人たちは、私は、知能的人間とよびたいと思います。

は、自分をすててしまっても、人の考えや感情に答えようとする人間になってしまします。それが、進んでいくと、自分の考え、感情さえも人にたずねないとわからないような人間になるといわれています。また、最近では、教えずに、教えるのは、教えずに、育てていく。そういうことばをよく聞きます。では、教えることと、育てることとは、どちらがうのでしょうか。

教えるというのは一方的です。つめこみ的です。何でもかんでも教えるおかないと、その子が損をする。だから、教えるおかないで……。それにひきかえ、育てるということは、やりとりがあります。つまり、相手の反応をみて、これから、何をすればいいか考えてやる。力に依じて与える。これが、育てることではないでしょうか。そこには、自己実現があります。子どもは、自分の力でやる、くふうがあります。「やったぞ」という喜びを、ぜひ、子どもに味わわせてやりたいのです。

このように、明治以来、知能がたいせつだ、知能の高い人が偉いんだという感覚が、きあがってしまっているの

はないかという気がします。つまり、知能の人間としての直線的な考え方を私たちが植えつけられていると思うのです。学校で、一直線上にやらべられてつけられた順位、成績が、社会にでてまかりとおっています。また、出世にしても直線的な考え方だし、分別ということも、はみだしを許さない直線的なものの見方だといえます。

ちょうど、エスカレーターと同じで、だまって乗りさえすれば、二階まで行き、三階まで行く。そういう、エスカレーター文明、文化の錯覚に、私たちは陥っていないかどうか。そして、人間というものに育てあげていけるもの、努力をしないもの、三無主義といわれることも、そこからきているのではないかと思うのです。

人間は、考える力を本来、持っているわけですが、この直線的な考え方に慣らされて、考えるというのを、知能の高い、ほんのひとにぎりの人にまかせてしまい、自分で考えることをしなくなってきて、いるような気がします。ですから、私たちは、「主体」とりもどすためにも、考える

ということをやらなければいけないのです。ぜひ、考えるということから、スタートをやり直してほしいと思います。四、態度の人間

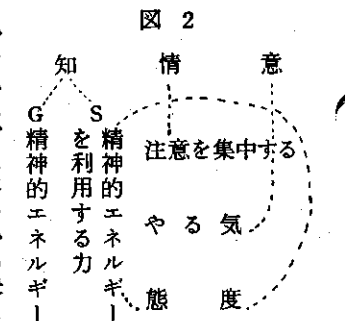
一般的には、人間の能力は、知情意と三つにわけて説明されていますが、これは、本当はひとかたまりだといわれます。「知能」を考えてみると、この知能にも、二つあるわけ



水田先生

す。一つは、一般的知能(G)で、精神的エネルギーといえます。もう一つは、特殊因子(S)で、特殊知能ともいいますが、精神的エネルギーを利用する能力です。

ところが、私たちは、これまで精神的エネルギーが知能だと思っており、この能力だけを必死に伸ばしていたわけです。これは生まれつきの能



力ですから、はじめから決まっています。しかし、十五歳までは伸びるので、生活の必要さの中にほうりこむことによつて、おおいに使い、鍛えなければなりません。

次に、精神的エネルギーを利用する能力ですが、これは経験とか教育によつて、生まれたのち育つものだといわれます。だから、たくさん経験を与え、そして、教育を受けさせなければなりません。

また、はじめの精神的エネルギーは、後者の精神的エネルギーとかかわりながら、十五歳以降は、充実していくのだといわれます。ですから、この二つめの知能を伸ばさなければいけないわけです。

では、態度とは何でしょう。一言でいうと、あることがらをやろうとするときの準備状態であり、心構え、考えかたです。つまり、価値判断を含んだ心の準備状態のこと

です。私は、この知能がバランスよく成長していることが、人間として値打ちがあると思えます。このような人を、私は態度の人間とよびたいのです。ここでの態度とは、みかけ上のことではなく、内面からわき出てきている心構えをさすわけです。

人間は欲望があるから、何でもやってみたいのです。ところが、計画性と準備が伴っていないために、失敗が多すぎて、やる気をなくしているのです。ですから、失敗の多い子には、計画と準備を与え、くふうを取り入れなければなりません。

また、道徳においては、私たちの姿を見て、実践するということですから、親や教師を模倣し、同一化し、同一視する。それが、小学校時代の大半をしめしていることも忘れてはなりません。

最後に、知能の人間ではなく、態度の人間、実践の人間といふものも回復するかどうか、もう一度、もどつてみる必要があると思えます。そのためには、学校教育だけでなく、地域において、もっと小さいときから、子どもをどう育てていくかというのを、教師と親とがいっしょになって考えていかなければ、むずかしい問題ではないかと思えます。

親らしい生き方

「我が家の道徳教育」

養新地町 池上長子

「子どもは親の姿を見て育つ」という言葉の通り、親達が自分の生き方を省りみずに子どもにばかり物事を強制してみても、長い目で見た時良い結果にはならないと思います。子どもが二、三才の夏のことでした。私は掃除機をかけながら忙しさにまかせ、何気なく足先で扇風機のスイッチを踏んで消したのです。ところが、翌日から子どもが扇風機を足先で消すようになったのです。

私はそれを見た時、一瞬愕然としました。両親の心もい出す雰囲気や日々の何気ない仕ぐさの中から子どもは何かを敏感に感じ取り感化されていくものだ。親はうかつなこととは出来ないし深く反省しなす。明るくすなおな子どもにする為、挨拶をほつきり出来る子どもにと思い私から率先して実行しました。

学校から帰って玄関の戸が開くと、私の方から大きな声で「おかえりなさい。」と言って迎えてやります。「ただいま。」と大きな声で喜々と入って来ます。家の中がぱっと明るくなります。最初はテレも手伝ってなかなか子どもの方から挨拶の言葉が出てきませんでしたが、今では何のためらいもなく、自然に挨拶が出来るようになりました。朝等、近所の人達に「おはようございます。」「行ってきます。」等のかん高い明るい子どもの挨拶をしている声を耳する時、私はうれしくてほっとした気持ちになります。本当に挨拶は人の心を豊かに円やかにしてくれます。親になることは、やさしいことですが、親らしくなることはむずかしいことです。

子どもの成長を願って、

新山東 峰 ツヤ子

子どもは親の生き方を見て成長する。ということをつも念頭において私は親らしい生き方を子どもにのこしていきたくと思っています。

長崎より島原に家を建て引っ越してきました。その生活は楽しく幸せな毎日でした。しかし、主人が突然急死してしまいました。

子どもは二才七ヶ月、家の周りはまだちらかし出来上がっていませんでした。これから先どうしたらいいか、目の前が真っ暗でした。その後、子どもは若草保育園に預けて自分は一生涯懸命に出ました。園長先生はじめ諸先生方には、励まし、可愛いがっていただき忘れれることも出来ません。しかし、子どもにとっては急

平凡な我が家

崩山町 松本悦子

に生活が変わり、先生のすきを見て帰って来て、カギのかけた家の前で泣いて先生方を困らせたこともありましたが、月日がたち、いよいよ年長組の卒園式がきました。子ども達が園歌を歌ったり、証書をもらう姿を見て、子どもの成長ぶりに涙がとめどもなく落ちてきました。一年生になり、運動会で走る姿や子どもの寝顔を見ては、自分を励まし、毎日に感謝し、子どもの成長を願い、また、立派な社会人になることを願って、一生懸命に頑張っている現在です。

我が家は、長女(小五)二女(小三)長男(四才)と夫婦、祖父母の七人家族です。長女はおばあちゃん子で甘えたところがあるが、お人よしのところがある。二女は姉に鍛われた為か勝負気なところがあるが、手伝いはよくしてくる。長男は姉二人の生活を見て育ち腕白ではあるが、正義感が強く、社会的で物わかりがよい。このように個性が違う。

ところで我が家では、四月より夫が転勤の為別居生活を送り、月に一、二回帰ってくる。最初の数ヶ月は帰省の際に沢山玩具等買ってきていた。では「お父さん、今度帰る時は

小さな思いやり

広馬場 織田美智子

十二月二日、私の誕生日である。「お母さん、お誕生日おめでとう♪」六年生の娘と四年生の息子がリボンをさしにかけた、四角い箱をさし出した。開けてみると毛糸で編んだあたたかそうな靴下であった。「お金が足りなかつたので、おじいちゃんとお父さんにも出してもらったよ。」というので、二人にも早速お礼をいっておいた。甘いあんこの入ったお菓子が大好きな私に、いつもは生菓子をプレゼントしてくれるのですが、今年はず、私の胃の調子が悪いの事を思いやって靴下にしたのでしよう。そしてまた、四年生の息子のことばです。「お母さん、僕の誕生日のケーキはチョコレートでよかよ」「なに？」「生クリームだったら、お母さんが食べられんやろ。」私はミルクは勿論、乳

「嘘」の報告

下川尻 奥村楨久

私達夫婦は仕事の都合上、子ども達(姉七才、妹四才)と接する時間は一日に約三時間位です。その以外の生活はすべて祖父母にみてもらっています。子ども達にはつくづく可哀想だと思っています。そのせいか、私の場合は少々悪いことをしても余り怒る気にはなれません。しかし、「嘘」をついた「人の悪口」をいった「自分の悪いことを人のせい」にする、こんなときはビシッと怒ります。二年

以前、こんなことが有りました。妹が泣いて来て「何にもしていないのに姉に腹を蹴られた」と。私はすぐ姉の所に行き、いきなり顔を殴りました。「姉のくせに妹をなぜ蹴ったか」と。一方的に悪いのは姉の方と決めてしまったのです。しかし、泣きながら姉がいうには、先に妹の方が何もしないで姉の頭を強打していたのです。「しまった。」と思ひ「嘘」をついた妹をひどく叱りつけました。

簡単な出来事かもしれない。しかし、姉が何も喋らずに終った。一方的に怒りっぱなしだった。姉は恐らく増長しすぎ「嘘」の報告をして親に。親の方は逆に段々心がいじけ、親や妹に対して反発するようになっていたでしょう。

その後、私は必ず姉妹喧嘩の時は、両方の言い分を充分聞くと、両方にしています。そして、真実をいえて、なお、その時に自分が悪かったと思えば素直な気持ちで「ごめんさい」といえるような「躰」をしていくつもりです。

自主性のある子供に

緑町 竹下冷子

先日、主人が四年間過ごした学生寮のOB会がつくられた懇親会で、ほろ酔い気分です。帰ってきた様子を見ていると、同じ屋根の下に住み、同じ釜の飯を食べるだけで、本当に心の底から打ち解けられるような友達を作れるのかと感心もし、疑問も持ったものです。

そして、主人によると、最近、子供の数が少なくなってきた。兄弟や姉妹との人間的なかわりがなくなってきた。のか、かつ受験競争で他人が敵だとか、競争相手に見えて、なかなか溶けてくれないというところになってきている。スポーツとか音楽とか、おしゃべりしたり

して思いをかわすことはできず、どうやってお互いが相手のことを考えながら、その友情を自分の生きる上での糧にするかという点については「寮」での団体生活が一番であると強調するのです。

最近では家庭でも学校でも子供に対する「躰」というものがなされないといふ言われまじ、常識や社会意識をもった人をつくる場を案外主人が言うような「寮生活」が受け持っているような気がします。しかし、こんな年令になるまで、何もできないのかと思えば、不安な気持ちになります。

挨拶は

白土船津下 竹中綾子

特別に、これといった道徳教育はしていませんが、挨拶は、明るいなおな心でできるよりにとっています。それでも、家ではできて、外ではむずかしいようです。

これは、一年生になってまもない頃のことですが、朝、元気な声で、「行ってきます」と、出るので、川で洗物をして近所の方から「今から学校ね。」といわれると、「はい」と小さな声で走りぬけて行くだけでした。注意すると、明日からはいからと、そのくり返しをしばらく続けていました。ある朝川で洗物をしておられる人

に、「おはようございます」といって、ゆっくり歩いていくのを見たときは、ほっとしました。

それから、もう外でもはずかしがらずにいえるようになったようです。親子で買物に行ったら折、すれちがった人にも、「こんにちわ。」と子どもの声。本人にいわせると「おなじクラスのお母さん、いや、知らないおばさんにもだれでん挨拶するようにお母さんはいうたじかかね。」というのです。親としてはずかしいかぎりです。

今では、高学年になり、近所の方より、年若い自分たちには挨拶してくれると喜んでもらっています。

挨拶できる心をいつまでもと願っています。

親から子に譲る積立財産

下川尻 森 秀 子

子供にとって、人生の身近な師である親から、一番最初に譲り受ける財産は、親が子供とともに実践しながら、積立ててゆく心の財産(道徳)だと思っています。日常生活の中に生きていく教えるを、親子へと教えること、子供へは、親がなされているので、はないでしょか。躰はきれ

我が家の道徳教育

山口 克 子

我が家の道徳教育としては、何の課題もなく過ごしてしま。まして、子供も一人しか恵まれず、我がままを大いに発揮しています。

それに私も二人は、ともに末っ子で自由気ままに育ち、我が子には、しつけられないし、つねは全くできません。

ある日、我が家で「ノーデレビデー」という日がありました。それは子供が剣道を習っています。けいこをさばった罰でした。すると次の日からは、自分から進んでけいこへ行こうようになったのです。この案は大変効果がありました。

今まではどこへ行くにも親のあとばかりついて来ていたのが、夜も一人で留守番し、パジャマに着替えて布団に眠っていたことがありました。不安ではありましたが、思いきって出かけてみて「この甘えん坊も、いつの間にか成長したなあ。」と親として大きな発見をしました。

一人で可愛そうではありませんが、素直なままで、人への道にはずれることのない、それなりの大人になってくれれば幸いです。

親から子に譲る積立財産

森 秀 子

子供に身についてこそ、躰といわれるように、ただ知っているだけでは、躰にはならないと思います。実行できる躰こそ、子供の財産になると思います。我家では、最近一つ財産がふえました。それは、やり直しの連続でやっとな子供たち、トイレのスリッパを逆さまにして出なくなったこと

子供にとって、人生の身近な師である親から、一番最初に譲り受ける財産は、親が子供とともに実践しながら、積立ててゆく心の財産(道徳)だと思っています。日常生活の中に生きていく教えるを、親子へと教えること、子供へは、親がなされているので、はないでしょか。躰はきれ



ペンキ塗り作業

環境部 有馬 純子

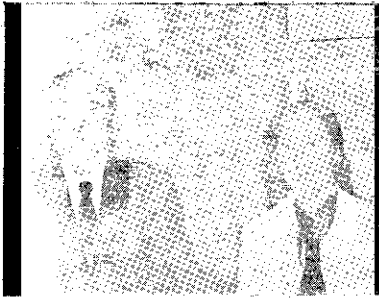
十月二十二日部会を開いてペンキ塗りの打ち合せを致しました。十一月十一日に道徳教育発表会がありますので、特に念を入れて作業致しました。藤棚、花壇のさく、鉄煉すべり台などのさび落しをし、

市教育功労者

前山会長授賞

前山四郎氏は、昭和五十二年、本校友会長に就任され、すぐれた才覚と行動力のある持主であることは、

会員皆様のご承知の通りであり、今回、前山会長の功績として、新校舎建設、新校舎落成記念バザーの開催、その資金をもとに校舎落成記念事業として、九州一と大鼓ばんをおされた土俵場の建設等、大事業を完遂され、地区の教育に寄与されたことが



さび止をしてペンキ塗りです。朝九時から午後三時まで皆一生懸命です。すんだ時には皆の顔、手、洋服等ペンキだらけでした。皆さんがとつても協力して下さいましたのでお蔭様で見違えるようになりました。御協力ありがとうございます。十二月に入り、寒さも本格的になってきました。寒くなつてはやる病気の代表に、風邪やインフルエンザが、三小でも十二月一日から十二日まででのべ二百八名ほど風邪で欠席しており、これは、毎日それぞれの学級で一人は風邪で欠席していることになりました。今からますます風邪の児童が増えてくると思われ、そこで風邪・インフルエンザの予防について一言。

認められ、十一月二十四日、島原市の教育功労者として、功労賞を授賞されました。前山会長は昭和五十四年度は、市連Pの会長として、市連P発展のため、巾広く育友会活動に献身的に貢献され、県P連より表彰を受けておられます。たび重なる授賞は島三小育友会の榮譽として、たいへんよろこばしいことです。今後とも、ますますのご活躍とご健闘をお祈り申し上げます。

冬を健康に

三小保健室より

風邪は、季節を問わずかかりますが、冬の風邪は、寒冷や乾燥が加わって咳・熱など児童の場合、特に顕著に表われます。風邪にかかりやすい、かかりにくいというのは、体力の有無に関係しています。ですから、冬でもなるべく薄着の習慣を作り外で体を動かすようにさせましょう。三小でも数人の児童が半ズボン・半袖でがんばっています。また、よく遊んだ後は、よく食べ、よく眠ることも大切です。食べ物は、好き嫌いなく、特にインフルエンザには、ビタミンCがよく効くと言われています。ですから、ハチミツを湯でとかしレモン汁を加えたものなどいと思います。



次によく眠ることですが、小学生の必要睡眠時間は、低学年が九〜十二時間、高学年が九〜十時間となっております。先日、児童集会で、睡眠時間についてたずねたところ、だいたい標準睡眠時間とっているようですが、高学年に七時間以下の児童が数名いたようです。お子さんの睡眠時間は、年齢に適していますか。また、風邪もインフルエンザもウィルスによるものですが、外から帰ったら、うがいと励行して下さい。これによつて咽頭近くに侵入したウィルスも取りはらうことができます。風邪は、「万病のもと」と言われます。こじれると肺炎気管支炎・腎炎その他の余病をおこします。かかったかなと思つたら症状の軽いうちに医師の治療をうけさせ、十分休養させるようにして下さい。今度の冬は、「風邪にかからなかつたね。」と言えるようにしたいと思えます。御家庭の御協力をよろしくお願いいたします。

編集後記



三百六十五枚のカレンダーも、残すところ、数少なくなりました。皆さんも、なにかと気ぜわしい頃と存じます。今年最後の「がんばり」をお届けします。この号は、昨今三小で道徳教育研究発表が行われましたので、道徳についての内容になりました。十一月十一日、三小に県内内の先生方二百名をお迎えして、道徳教育の研究発表「豊かな心を持ち、実践力のあがる児童の育成をめざす道徳教育」をテーマに道徳教育モデル校として、研究と実践に取り組んでこられた成果を発表されました。先生方の道徳教育に関する実践指導に対し、父兄である私達はどのような家庭教育をして来たでしょうか。一人一人、複数の子をお育ての会員の方々にお願いして、子供に対する親の家庭教育の全貌をお聞きしました。皆さんには快くお引受けいただき、たくさんのお原稿をありがとうございます。今後とも、なお一層のご協力をお願いいたします。年の瀬も迫りました。お忙しい毎日、健康に注意され、よいお年をお迎え下さい。